

**2 0 2 2 (令和 4) 年度**

**事業報告**

社会福祉法人おおつ福祉会

## 1 情勢報告

新型コロナウイルスの感染は、法人内事業所で感染を繰り返し、閉所や対応に引き続き追われた。社会的には終息に向かいつつあるが、障害福祉現場での対応はこれからも求められている。

きょうされん等で要望してきた強度行動障害のある人のグループホーム整備について、滋賀県では「重症心身障害者等施設整備事業」として県単独で予算化された。制度の利用とともに引き続き課題を挙げていく必要がある。

国では、障害者総合支援法改正法が成立し、グループホームに一人暮らしへの支援や就労系に就労選択支援等の新たな役割が追加されたが、役割が大きくなるにもかかわらず予算的な裏付けはないままである。

## 2 法人の重点課題の概要

(1) 新型コロナウイルス感染症対策では、行事の見直し、健康観察の強化、給食時の感染対策などの取り組みを進めてきたが、夏の第7波、冬の第8波などの影響を受け、年間通して大半の事業所で感染が発生し、複数回クラスターとなった事業所もあった。感染者は全員無事回復した。グループホームでの陽性者支援には、日中事業所職員も応援に入り、少ない職員体制のなかで懸命の支援を行った。

(2) 人材確保については、雇用情勢の深刻化を踏まえ、5回の採用試験を実施し、正職員を4人、年度途中も含め契約職員を2人採用した。職員からの紹介による採用も増えつつある。

(3) 新任・中堅研修については、職員のニーズに合わせた内容とし、後述のように計画的に進められた。義務化となった虐待防止と身体拘束適正化に向けた取り組みに関連し、同テーマで人権研修を実施した。また、学生実習の受け入れは2事業所8人となった。

(4) 財政運営の安定化では、感染症による閉所や利用自粛、一般就労や高齢化等に伴う利用者の減少、移動支援の制度変更、実地指導で給付費の過誤返還を求められるなど、複数の要因により大幅な減収となった。次年度に向け経営改善の取り組みが引き続き求められる。

(5) 働き方の見直しでは、総時間外労働は、6673時間で2021年度より628時間減少した。有給休暇取得日数は2957日で2021年度より174日増加した。(賃金支給月ベース)

(6) 相互に人格を尊重しあう民主的な組織運営の取り組みについては、労働安全衛生委員会の設置に向けて、労使協議会等で協議を進め、次年度から設置に向けた準備会を立ち上げることとなった。

(7) ショートステイむくの木・栗津ホームの改修については、接道が確保される見通しがつき、次年度に大規模修繕に向け国庫補助申請を行う。

(8) 利用者・家族の高齢化については、病気等に伴う支援内容の見直しや高齢施設や医療機関への移行など相談機関とも連携して対応を進めた。

(9) 芸術活動については、後述の美術会議を中心に計画的に取り組んだ。また作品がぴかつ to アート展等に入賞した。

(10) きょうされん国会請願署名6,165筆を集めた。

## 3 組織的な課題等

事業企画部を中心に今後5年に関するおおつ福祉会第4期中期計画を策定した。

本年度も引き続き施設長会議に理事長も出席し、業務を執行した。

苦情委員会において、苦情として取り上げられたのは23件で、第三者委員に申し立てられたものはなかった。

## 4 他の組織との連携

(1) きょうされん滋賀支部へ副理事長・事務局長、常任理事を派遣し、大津ブロックとして副ブロック長を担った。滋賀支部として県との懇談で要望書を提出し、大津市にも同様の要望書を提出した。

(2) 大津市福祉施設協議会の事務局、滋賀セルフ協の副会長等の役割を担い、活動を支えた。

(3) おおつ福祉会後援会との連携では、事務局を担い、運営委員に法人役員を派遣した。2月和邇文化センターで映画会を開催した。後援会から法人に1,500千円の寄附を頂いた。

(4) 家族会連合会と合同で大津市との懇談会を実施した。

## 5 財政運営

(1) 資金収支計算書の当期資金収支差額が-59,017千円となった。

(2) 建設積立金とマイクロバス積立金を積み立てた。(積立額3,220千円)

## 6 事業量

各事業の事業量は次のとおり

事業種別	事業所名 ( )内定員	事業量		
		2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績
障害福祉サービス事業 (日中活動)	①唐崎やよい作業所(生活介護34人)	7,210人/年	7,152人/年	6,992人/年
	②社会就労センターこだま(就労継続B40人)	6,949人/年	6,938人/年	6,203人/年
	③社会就労センターあおぞら (生活介護30人)	7,100人/年	6,657人/年	6,331人/年
	④多機能型事業所ふうね(就労継続B30人) (就労移行6人)	5,455人/年 392人/年	5,562人/年 503人/年	5,445人/年 567人/年
	⑤おおぎの里 (生活介護15人) (就労継続B15人)	2,737人/年 1,922人/年	2,352人/年 2,098人/年	2,495人/年 2,067人/年
	⑦「伊香立の杜」木輝 (生活介護40人)	11,842人/年	12,048人/年	11,743人/年
グループホーム・ケアホーム	①南志賀ひまわりホーム(共同生活援助45人)	11,588人/年	12,413人/年	11,585人/年
	②伊香立の杜ケアホーム(共同生活援助38人)	12,732人/年	12,608人/年	12,356人/年
ショートステイ	①ショートステイむくの木(短期入所10人)	2,193人/年	1,954人/年	1,763人/年
	②伊香立の杜ショートステイ(短期入所12人)	3,108人/年	2,833人/年	2,780人/年
ホームヘルプ等	①おおつ福祉会ホームヘルプセンター	11,074時間	10,404時間	7,858時間
	②日中一時支援事業	460回	424回	427回
相談支援事業	①相談支援事業所ひびき	5,057件	6,049件	5,554件

## 7 理事会・評議員会の開催と出席状況、監査の状況

### (1) 理事会の開催日及び出席状況

開催年月日	場所	出席/理事総数	出席/監事総数
2022年 6月1日(水)	大津公民館	7/7	2/2
8月24日(水)	オンライン	7/7	2/2
12月21日(水)	大津公民館&オンライン	7/7	1/2
2023年 3月15日(水)	大津公民館&オンライン	7/7	2/2

### (2) 評議員会の開催日及び出席状況

開催年月日	場所	出席/ 評議員総数
2022年 6月19日(日)	社会就労センターこだま	7/8

### (3) 監事による監査の実施状況

実施年月日	場所	担当した監事
2022年 5月13日(金)	「伊香立の杜」木輝	馬場監事・平井監事

## 8 研究・研修部

本年度研究・研修部が企画・実施した研修は以下の通りである。尚、新型コロナウイルスの影響により法人全体で集まるのではなく ZOOM を使用しながら各事業所を会場とした。

研究・研修部会議は年間 14 回実施（月曜日 16 時 30 分～ ZOOM で実施）した。また、会議後は会議報告を全事業所へ送り、研究・研修部員が在籍していない事業所と情報の共有ができるように取り組んだ。また施設長会議でも会議報告を行い、研修意図・ねらいなどが明確になるよう努めた。

会議のなかで学習会を実施した。部員それぞれが学習テーマを考え意見交換を行った。そのなかで来年度に向けて学習の進め方についても検討を行った。来年度は法人実践の振り返りも含めて、実践成果・課題についてまとめていく方向性を確認している。

本年度の人権研修では、虐待や身体拘束について法人全体で共通の認識を持つために各事業所で学習を行い、その後各事業所での支援を振り返り、現在の課題を整理して法人全体で共有する時間を設けた。虐待・身体拘束について虐待防止委員会、身体拘束適正化委員会とも連携しながら継続して研修を積み上げていく必要がある。

研究集会では、複数事業所での合同開催とした。それぞれ事業所の所長・主任と話し合いながら企画・実施を行った。法人全体で集まったの開催ではなかったが、複数事業所合同ということで他事業所との意見交換ができたことは本年度の成果として上げられる。

来年度も事業所内で実践・学びを深めていくため、研修部員が中心となり法人全体（各事業所の実態。課題を把握し）の研修を進めていきたいと考えている。

### (1) 新任・中堅研修

7月2日(土) 新任・中堅研修 9:00~17:00

新任研修 午前中（午後から研究集会参加）

- ① グループワーク「働いてみて楽しかったことや悩み」
- ② 利用者家族講演
- ③ 質疑応答

2021 年度研究集会

- ① 実践報告
- ② グループワーク

### (2) 人権研修 2022 年 11 月 19 日 (土) 8:45~17:15 場所：各事業所

午前 「安全運転講習」【講師：岡武和暁氏（岡武保健事務所）】

虐待・身体拘束について学習

午後 午前の学習を受けて各事業所の実態と改善に向けてグループワーク

各事業所グループワークの報告

(3) 中堅研修／新任フォローアップ研修 中止

例年、12月～2月上旬にかけて実施してきたが、新型コロナウイルス感染症より中止とした。

(4) 研究集会 2022年2月25日(土) 8:45～17:15 場所：各事業所

各事業所で年間を通してレポート作成に取り組んだ。また、レポート・資料集を作成した。実践報告会は各事業所を会場として複数事業所合同で開催した（実践報告は事前録画したものを使用した）実践報告後はグループワークを行った。

## 9 会議報告

(1) 事業企画部 年間5回開催

・会議内容

①第3期中期計画の総括と、第4期中期計画の検討、計画案作成

②むくの木の移転に係わり、プロジェクト会議開催。補助申請は接道の工事の見込みがなかったことで見送る。現状の場所で複合的な事業展開の方向ですすめていくことを確認する。一方、おおぎの里の土地利用について、法人の課題を整理し、総合的な計画を立てることを確認する。

(2) 居宅会議 年間5回開催（内1回は新型コロナウイルス感染症の影響により中止）

・会議内容

各事業所の報告及び、①第3期中期計画の振り返りとまとめ、②新型コロナウイルス感染症の状況等についての情報共有、③グループホームの長期休み等の勤務応援体制について情報共有や議論を行った。

①については、大津市の居宅に関する状況について振り返りを行い、居住・短期入所、相談支援・ヘルプ、日中一時・放課後等デイサービス、地域生活拠点に関する課題をまとめた。

②については、療養期間の短縮、陽性者登録など変更のあったことについて、各事業所でどのように対応しているか等を確認した。また、短期入所やヘルプであれば新型コロナウイルス感染症による利用減に対して収入の補填がないことや、グループホームでは陽性者及び濃厚接触者の支援の難しさや支援員の確保に大変苦慮している状況を確認した。

③については、昨年度も応援に入ることができる職員が限られているなどの課題があり、長期休みの勤務体制を組むことに苦慮している状況を確認していた。今年度は新型コロナウイルスの影響やキーパーが減っていることなどにより、支援員の不足が常態化している。この状況を受けて各ホームにバックアップ施設を設けることで、連携して支援体制の確保できるようにしていく必要があると確認した。また、グループホームの応援に入りやすいように次年度はバックアップ施設の具体案や、応援に入りやすくするために通所施設等の職員のグループホーム実習を検討していきたい。

(3) 給食部会

新型コロナウイルス感染のため調理師と給食委員合同の会議をとりやめ、各事業所に管理栄養士が聞き取りをおこなった。年度末になり新年度の報告と課題を確認して終える。

・会議内容

コロナで急に給食を止めた時の食材のロスが大きい。

材料費の上がり方が大きい。食材の仕入れなどを工夫した。

伊香立の杜厨房職員のコロナ感染により配食を止めた。

各事業所が閉所した分の食材はお弁当等に使用した。

異物混入は鶏の骨・ビニール。また、ヨーグルトの蓋に穴があった。

こだまのパン太郎のパンを給食に提供した。

米以外の材料はすべて値上がりしたが嗜好調査でリクエストの多いケーキは提供する。

#### (4) 広報会議

2022年度は計12回の会議を開催し、リーチ61号と62号を発刊した。61号では「ともにつくる、明日につなぐ」と題し各事業所で日々作られている自主製品の紹介を20ページに拡大して特集した。62号では理事長・常務理事のあいさつ、職員紹介、法人の給食を紹介する特集記事、第2回「星に語りて」上映会の報告、障害をテーマとした映画を紹介する「この映画必見です」を、それぞれ掲載した。

#### (5) 美術会議

美術展実施検討と意見交換を対面とZOOMにて実施

作品展応募結果

ぴかつ to アート 入賞1人 入選6人

グッズデザインコンクール 入賞1人 入選1人

ポコラアート 入選1

関電コラボアート 入賞1

深川パラリンアート 入選1

#### (6) 人材確保部会

2022年度は計3回の会議を開催した。主に法人としてSNSを使った人材確保のための運用方法について協議し、SNS運用案を作成して施設長会議にて起案を行った。大学のオンライン講義のなかで法人説明や現場での働きがい等について話す機会が持てた。昨年度、作成した法人パンフレットの活用方法についても検討した。

## 10 各事業所の報告

### (1) 唐崎やよい作業所

#### 1. 利用実績 (定員34人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	20	20	22	21	21	21	21	21	21	18	20	22	248
契約者数(人)	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	372
利用者延出勤数(人)	570	574	633	583	560	584	601	590	594	497	569	637	6992
対定員利用率(%)	83.8	84.4	84.7	81.8	78.5	82.1	84.4	82.6	83.2	81.5	83.8	85.3	82.9

#### 2. 重点課題に対する取り組み

(1) 契約者増減なし。

(2) 利用者の日中活動を充実させるために仕事(手織り・陶芸・リサイクル)、文化的活動(音楽・造形・絵画等)、身体を動かす活動(散歩・体操等・山歩き)、毎週1回の定期的なレクリエーション(誕生日会・合同造形・季節行事等)を実施した。グループ活動は7月より再開したが、事業所での感染等のため一時中断した。まつりや旅行は見合わせた。オリジナルTシャツの制作販売をしたが、これまで販売したTシャツのパンフレット作りを計画したができなかった。

(3) 車両1台(10人乗り)を購入した。また年度末に河本財団の車両1台贈与が決定した。建物の老朽化に伴い、雨漏れ等の不備部分や窓の故障修繕を実施した。

(4) 利用者の発達検査とケース検討会を6ケース実施した。またPT・OTに来てもらい利用者の運動面、食事面のアドバイスをいただき、利用者支援につなげることができた。

(5) やよい通信を5月に近隣地域へ配布した。また運転手募集や空き缶回収のお知らせを配布した。

陶芸ボランティアにも引き続き来ていただき、作品作りを進めることができた。

(6) 2023 年度末の陶芸室借地返還に伴い、準備を進めた。

### 3. 苦情・事故等

苦情 2 件、事故 3 件 (内車両事故 2 件)

## (2) 社会就労センターこだま

### 1. 利用実績 (定員 40 人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数 (日)	21	20	23	21	22	20	22	21	22	19	20	23	254
契約者数 (人)	39	38	38	38	38	38	36	36	36	36	35	35	443
利用者延出勤数 (人)	570	512	594	531	532	497	548	514	522	416	470	497	6203
対定員利用率 (%)	67.8	64.0	64.5	63.2	60.4	62.1	62.2	61.1	59.3	54.7	58.7	54.0	61.0

### 2. 重点課題に対する取り組み

(1) 養護学校の学生を中心に実習を受け入れてきたが、契約につながらなかった。土曜開所日は毎月 1~2 回設けることができたが、利用者数が減ったことや欠席者も多かったことから、収入を増やすことは難しかった。

(2) 利用者の状況や課題に応じてケース会議を実施し、事業所の移行を行った。利用者の高齢化や障害の重度化に伴い、事業形態の検討について議論することはあったが、具体的に変更するまでにはいかなかった。

(3) 一般就労に向けて実習を進めるなかで 1 人就職し、就労継続支援 A 型に 1 人移行することができた。

(4) 急を要する修繕はなかった。

(5) 発達検査及びケースカンファレンスについては、年間計画のなかで定期的に進めることができ、4 人のケースについて学習を深めた。一方で、外部の研修参加については職員によって偏りがあり、全体的に参加を促すことができなかった。

(6) クラブ活動は定期的に実施し、行事については、3 年ぶりにバス旅行に行くことができた。事業所製品の販売は関係機関とのつながりによって、単発ではあるが販売会という形で実施できた。事業販売も積極的に行った。

### 3. 苦情・事故等

苦情 0 件、事故 3 件 (うち車輛事故 1 件)

## (3) 社会就労センターあおぞら

### 1. 利用実績 (定員 30 人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数 (日)	21	20	23	21	20	21	21	21	21	17	19	23	248
契約者数 (人)	31	31	31	31	31	31	29	29	29	29	29	29	360
利用者延出勤数 (人)	536	518	596	540	550	566	524	525	516	406	485	569	6331
対定員利用率 (%)	85.1	86.3	86.4	85.7	91.7	89.8	83.2	83.3	81.9	79.6	85.1	82.5	85.0

### 2. 重点課題に対する取り組み

- ・契約者数は31人で始まったが、9月に2人退所し、29人となった。
- ・旅行に代わるイベントとしては夏まつりを開催し、季節ごとのイベントも事業所内で感染予防に努めながら実施した。
- ・屋根防水・外壁塗装の国庫補助協議は採用されなかったため、応急措置を行った。
- ・地域向け通信の発行は実施できなかったが、アルミ缶の回収や事業販売、署名活動を通して地域の協力を得ることができた。
- ・活動の場所を大幅に見直し変更することで、個人スペースが必要な利用者の環境整備ができた。

### 3. 苦情・事故等

苦情4件、事故0件

## (4) 多機能型事業所ふうね

### 就労継続支援B型（あこーる）

#### 1. 利用実績（定員30人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数（日）	21	21	23	21	20	22	22	21	21	18	20	23	254
契約者数（人）	25	25	25	25	25	25	25	25	24	25	25	25	24.9
利用者延出勤数（人）	461	452	504	461	447	468	465	452	446	387	425	477	5445
対定員利用率（%）	73.3	72.0	73.3	73.3	71.0	71.0	70.7	72.0	71.0	71.7	71.0	69.3	71.7

#### 2. 重点課題に対する取り組みについて

(1) 今年度、入所1人（移行より）、退所者（就職者）1人で25人の契約者数だった。土曜開所日は月1回以上開催できた。

(2) 工賃目標については、年額一人平均92,874円（交通費補助含む）となり目標達成できなかった。原因としては、3年前前から続く新型コロナウイルスの影響が続いたことが大きかった。箱折りに代わる活動として、新たな作業をおこない就労売り上げの回復をめざした。

(3) 一般企業へ就職者が1人出た。

(4) 利用者の見えにくい不安や課題を心理職と連携をとった。また、職員会議のなかで支援員の学習・研修時間を設定し日常の活動に活かすよう引き続き取り組んだ。

(5) 利用者が意欲的に取り組める活動として創作活動を行ったが、後半は下請け作業の回復もあり十分に活動できなかった。

(6) 利用者が主体となる取り組みとして、利用者自治会運営の支援を行った。今年度も、新型コロナウイルスの影響で一泊旅行や各種行事が取り組めなかった。代わりに事業所内の取り組みとして、クリスマス会、お疲れ様会等を実施した。

(7) 高齢利用者等の状況に応じた活動内容については、主に1階で作業を行いゆったりとした環境をつくった。現状の作業が中心で特化した活動はできなかった。

### 就労移行事業（ころーれ）

#### 1. 利用実績（定員6人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数（日）	20	19	22	20	20	20	20	20	20	17	19	22	239
契約者数（人）	3	3	3	3	4	4	4	4	4	3	3	3	3.4
利用者延出勤数（人）	31	39	40	38	57	54	54	52	56	40	47	59	567
対定員利用率（%）	26.7	35.0	31.7	31.7	48.3	45.0	45.0	43.3	46.7	40.0	41.7	45.0	40.0



## 2. 重点課題に対する取り組み

(1) 2022年度4月当初の契約者は2人。その後2人契約(4月途中～、8月～)、1人福祉的就労に移行し(12月末)があり、3月現在の契約者数は3人となった。利用希望の見学や実習は引き続き数名あり、地域に社会資源として認識されている。事業変更については、引き続き検討していく。

(2) 所外に出での学びや体験はできなかったが、所内で体験活動を行い、生活に必要な知識を学ぶ時間設定し、行政手続きを自分で行うことを実施した。

(3) 定期的に相談する時間を設定し、自分の就職に対する不安等を軽減するため関連機関と連携を行った。

(4) 所内実習の実施と関連機関と連携を行った。

(5) ネット販売では法人内の商品を追加で掲載し売り上げにつながった。また、ホームページでは自主製品の紹介やブログを通してふうねの取り組みや利用者の書いた記事の掲載を継続した。

(6) 相談機関からの見学や実習が契約につながった。

(7) 社会福祉士の実習など教育機関からの実習を5人受け入れた。

(8) 法人嘱託医によるスーパービジョンを受け、各事業所に呼びかけケース検討会を行った。

(9) 発達相談室は、法人内の研修を企画し、他法人のスーパービジョン、大学の講師依頼を受けた。

## 3. 苦情・事故等(共通)

苦情1件、事故2件

### (5) 障害者福祉サービス事業所おおぎの里

#### 1. 利用実績

##### ○生活介護(定員15人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	21	21	23	21	22	21	21	20	22	19	20	23	254
契約者数(人)	16	17	17	17	17	17	17	17	16	16	16	16	199
利用者延出勤数(人)	206	210	239	216	211	206	209	180	205	167	204	242	2,495
対定員利用率(%)	66.0	66.7	69.3	68.7	64.0	66.0	66.7	60.0	62.7	58.7	68.0	70.7	66.0

##### ○就労継続支援B型(定員15人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	21	21	23	21	22	21	21	20	22	19	20	23	254
契約者数(人)	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
利用者延出勤数(人)	178	175	201	184	183	178	161	146	170	141	154	196	2,067
対定員利用率(%)	56.7	56.0	58.7	58.7	56.0	56.7	51.3	48.7	52.0	50.0	51.3	57.3	54.7

## 2. 重点課題に対する取り組み

(1) 生活介護は、卒業生1名と他事業所との併用利用で1名の計2名と契約した。11月には以前より他事業所と併用利用していた利用者が移行したため退所となった。就労継続支援B型は見学を積極的に受け入れたが実習には至らず新規契約はなし。

(2) 見学や実習を積極的に受け入れることができた。また、長期欠席者については家庭訪問を継続して行った。

(3) 土曜日開所を年間の予定通りに実施できた。

(4) 日帰り旅行を検討したがコロナ禍で実施できなかった。季節の行事やBBQ大会はコロナの感染対策を行いながら実施できた。

(5) 設備については、必要に応じて修理をした。エレベーターの維持修理については、今年度も不

具合がなかったので実施していない。

(6) 発達検査及びケースカンファレンスについては、2 ケース実施することができた。

### 3. 苦情・事故等

苦情 1 件、事故 1 件（車輛）

## (6) 「伊香立の杜」木輝

### 1. 利用実績（定員 40 人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数（日）	21	21	23	22	20	21	22	22	21	19	20	23	255
契約者数（人）	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	576
利用者延出勤数（人）	987	955	1,078	1,007	918	984	1,021	1,020	984	835	904	1,050	11,743
対定員利用率（%）	117.6	113.6	117.3	114.5	114.8	117.3	116.3	116.0	117.3	110.0	113.0	115.3	115.3

### 2. 重点時課題に対する取り組み

(1) 後半期はコロナ感染対応のための職員配置もあり、開所できない月があった。

(2) 照明器具の故障があったにもかかわらず、故障個所が大きく、予算確保できず切り替えを見送った。

(3) 大型の車輛故障が頻繁に起こり、利用者の送迎や活動への影響が大きかった。また、同時に厨房等内の器具の故障もあり、計画的な積み立てが必要になってきている。取り換え、修理をしてきたが、大きな器具等の取り換えが予測される。

(4) コロナ感染状況を判断し、今年度も内部だけの納涼祭、夏祭り、餅つき等となった。旅行についても、後半期にコロナ感染者が出たことにより、その影響もあり、職員体制が取れなかった。

(5) 今年度もケースカンファレンス（発達検査も含む）については実施できなかった。早い段階で外部に依頼をかけていくようにする。

### 3. 苦情・事故等

苦情 4 件、事故 0 件

## (7) 伊香立の杜ケアホーム

### 1. 利用実績（定員 38 人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数（日）	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
利用実績（人）	1,028	1,000	1,008	1,043	1,054	1,034	1,072	1,047	1,059	1,009	952	1,050	12,356
平均人数（人）	34.3	32.7	33.6	33.6	34.0	34.5	34.6	34.9	34.2	32.6	34.0	33.9	33.9
利用率（%）	90.2	84.9	88.4	88.5	89.5	90.7	91.0	92.0	89.9	85.7	89.5	89.1	89.08

### 2. 重点課題に対する取り組み

(1) 4 月末で 1 人の利用者が退所となった。7 月に利用者 1 人がケアホーム（やまもも）から山百合ホームに移行し、8 月に 1 人の利用者が新たに入所した。

(2) 2 月に新型コロナウイルス感染症のクラスターとなったが、感染予防やこれまでの陽性者支援の経験も踏まえて対策を行った結果、2021 年度 2 月のクラスターと比べると広がりを押さえることができた。

(3) 随時夜勤者の募集等を行いアルバイトの職員数を増やすことができたが、各ホームの運営を円

滑に行えるところまでには至らなかった。

(4) 定員1人の空き枠について、年度内に新規の利用者を受け入れることができなかった。受け入れる居室を作るために、現在入居している利用者の課題解決やそれに伴う居室の修繕工事を行う必要があったが、修繕工事が年度内に終わらなかった。

(5) 季節に応じた行事食は、感染予防の観点から利用者や職員が集まることを避け、それぞれのホームで食事を行うという形をとり、年4回実施した。

(6) 軽車両1台の購入について、中央競馬馬主社会福祉財団の助成事業を申請した結果、交付決定されることとなり、軽車両「アルト」を購入した。

(7) キーパー学習会を年2回実施し、福祉の基礎的な話や人権・虐待について学習を行った。職員の学習会や衛生管理・感染予防の研修と訓練は実施できなかった。

### 3. 苦情・事故等

苦情0件、事故1件

## (8) 伊香立の杜ショートステイ

### 1. 利用実績 (定員 12 人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	30	28	31	364
実利用者数(人)	74	81	81	83	46	71	68	69	76	68	75	84	73.0
延べ利用者数(人)	259	267	266	250	224	258	269	259	260	212	66	243	2780
平均利用者数(人)	8.7	8.7	8.9	8.1	7.3	8.6	8.7	8.7	8.4	7.1	2.4	7.9	7.7
利用率(%)	67.5	66.7	69.2	72.5	38.3	57.5	52.5	70.8	65.8	59.2	71.7	76.7	64.2

### 2. 重点課題に対する取り組み

(1) 引き続きコロナ禍で、未だ自粛を続けている利用者がいた。8月にはショート内でクラスターが起り、利用が大幅に減少した。新規契約は12人だった。年間の平均利用率は7.7人となり昨年度とほぼ同水準だったが、目標としていた8.5人には届かなかった。

(2) 必要な備品を購入した。

(3) ケース会議に積極的に参加して各機関と情報や本人像の共有を行い、適切な支援を模索し実践することができた。緊急時対応についても、関係機関と連携し、概ね受け入れることができた。

(4) 伊香立の杜ケアホームと合同の避難訓練を2022年7月に実施した。

(5) コロナ禍によりイベントの開催自体が危ぶまれたが、例年通りのイベント(8月、1月)を縮小や小分けする等工夫して開催し、利用者の楽しみを保障することができた。

(6) 納涼祭、餅つき大会とも、内部のみではあったが開催することができた。地域版通信を発行できなかったため、地域とのつながりを持つことができなかった。

### 3. 苦情・事故等

苦情7件、事故0件

## (9) グループホーム

### 1. 利用実績 (11 ホーム、定員 45 人) \* 開所日数は全ホームの総数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	300	310	300	309	310	300	310	300	310	308	277	310	3,644
利用実績(人)	1,075	1,048	1,045	1,044	1,015	955	978	916	918	888	799	904	11,585

平均人数(人)	3.58	3.38	3.48	3.38	3.27	3.18	3.15	3.05	2.96	2.88	2.88	2.92	3.18
利用率(%)	87.4	82.5	85.0	82.4	79.9	77.6	76.9	74.5	72.2	70.3	70.4	71.1	77.5

## 2. 重点課題に対する取り組み

(1) 年度当初は38人の利用者だったが、年度内に移行があり、3月時点で契約利用者は30人となった。自立支援協議会での住まいの取りまとめは、中軽度の利用者対象には開催されなくなったため、ホームページの空き状況の情報を更新するにとどまった。自立支援ホーム以外に年度内に空きが3床だったが、問い合わせはあるものの、体験までには至っていない。

(2) 財産管理は、監査があったことで、再度預かり金規程についてより合理的で運用しやすい内容にできないか検討した。年内に2人後見人制度を利用していく手続きを完了できた。

(3) 利用者の高齢化に関わっては、コロナの流行で、一番影響を受ける利用者として、入院や療養機関の利用など、できるだけ配慮をした。また、数人が急激な身体機能の低下や、病状の悪化で介護や医療中心の生活に移行を余儀なくされ、ケアマネや地域医療と密に協議をすすめ、必要な支援の場に移行していくこととなった。従来グループホームの支援体制は、中軽度の自立した障害のある人を対象としているため、高齢化による支援の質に関わる課題が顕著になった。

(4) 年度内に自立支援協議会より、自立支援ホームのニーズがなくなってきているとの申し入れがあったのと同時に、大家さんからも2023年4月を目途に契約の終了の申し入れがあったため、存続について確認し、閉所に向け利用者の次の行き場について調整をした。大津市の資源としての自立支援ホームの意味や、まとめをした上で、役割を終えていくこととする。

(5) 年間に渡ってコロナ感染拡大の影響があったため、思うように余暇活動ができなかった。感染の影響が少し緩んだなかで、できる範囲ではあるが余暇を再開し、楽しめる内容を提案できた。

(6) 非常災害時の対策マニュアルを改訂し、共有した上で、各ホーム年2回の避難訓練と南志賀ひまわりホームの土砂災害の避難訓練を実施した。

(7) 移転や今後の地域のホームのあり方に関して、検討をはじめた。南志賀ひまわりホームの移転は、1ヵ所候補物件情報が寄せられた。

(8) エアコンは故障があった際に新調した。今宿ホームのスプリンクラーは、国庫補助申請が通らなかったため、今年度改めて、国庫補助申請を行った。

(9) 栗津ホームとむくの木複合的な事業展開については、2023年度の国庫補助申請に向けて検討会議を重ねている。

## 3. 苦情・事故等

事故報告4件、苦情1件

### (10) ショートステイむくの木

#### 1. 利用実績(定員10人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	26	27	27	28	26	28	28	27	27	26	26	27	323
実利用者数(人)	69	67	69	67	66	64	64	67	61	56	64	62	64.7
延べ利用者数(人)	150	152	152	152	146	150	145	160	141	130	142	143	1763
平均利用者数(人)	5.8	5.6	5.6	5.4	5.6	5.4	5.2	5.9	5.2	5.0	5.5	5.3	5.5
利用率(%)	57.7	56.3	56.3	54.3	56.2	53.6	51.8	59.3	52.2	50.0	54.6	52.9	54.6

#### 2. 重点課題に対する取り組み

(1) 中軽度の方を中心に1日平均6人の利用を目標とする。  
→コロナ関係を中心に1ヶ月平均17.6件のキャンセルがあり、平均利用率は5.5人の利用で推移した。

(2) 緊急利用を含め多様な利用ニーズに対し、本人の特性や背景をふまえ、関係機関と協力して支援を行う。

→閉所が確定している日の対応は難しかったものの、例年通り緊急時の受け皿として役割を果たした。1ヶ月の緊急利用平均2.7日。

(3) 今の建物を活用した複合的な事業展開を検討し、大規模修繕のための国庫補助申請に協力する。  
→2023年度の国庫補助申請に向けて準備を進めている。接道に関しては3月に造成工事が着工した。

(4) 自治会への参加を継続し、むくの木通信地域版を発行する。

→自治会には継続加入してきた。地域版の通信も発行した。

### 3. 苦情、事故

苦情7件、事故0件（うち車輛事故0件）

## (11) おおつ福祉会ホームヘルプセンター・きたくぶ(日中一時支援事業)

### 1. 利用実績

#### ○ホームヘルプ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	集計	平均
依頼件数	503	509	505	519	523	487	492	476	504	474	448	453	5893	491
実施件数	366	401	389	397	288	348	348	348	392	355	334	326	4292	358
お断り	73	71	71	57	107	87	71	76	54	62	51	77	857	71
キャンセル	64	37	45	65	128	52	73	52	58	57	63	50	744	62
支援時間(h)	691	738	741	693	546	609	632	630	696	657	607	617	7858	655
身体介護(h)	78	85	88	75	66	92	64	87	77	70	63	73	918	77
行動援護(h)	236	239	261	253	190	204	228	213	245	238	198	210	2715	220
重度訪問介護(h)	37	42	37	44	32	26	44	27	49	45	29	39	447	37
移動支援個別(h)	128	141	139	115	102	95	106	113	114	110	123	108	1394	116
車両移送単独型(h)	83	100	83	84	54	75	77	77	82	68	83	78	942	79
車両移送併用型(h)	130	133	133	122	102	118	113	115	130	127	111	109	1442	120
利用人数(人)	135	138	136	134	118	132	128	131	133	125	123	125	1558	130

#### ○日中一時

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
開所日数	20	20	22	24	20	21	22	23	18	18	21	21	250
利用者数	41	33	40	38	36	37	34	39	31	29	35	34	427
一日平均	2.1	1.7	1.8	1.6	1.8	1.8	1.5	1.7	1.7	1.6	1.7	1.6	1.7

### 2. 重点課題に対する取り組み

(1) 2022年度当初の計画は年間支援時間を10,550時間としていたが、実績は7,858時間であった。中でも行動援護は当初4,000時間を目標としていたが、男性ヘルパーの不足やコロナによる断り・キャンセルなどがあり大きく目標時間数を割ることとなった。移動支援では乗合による送迎ができなくなり利用者のニーズに応えられないケースが増えたため法人内でのみ公的な給付金を伴わない施設送迎を実施し、ショートステイの送迎に関しては一定程度保証できるよう取り組んだ。

(2) 日中一時支援事業の年度当初の目標は、開所日数 216 日、利用者人数 480 人、一ヵ月平均利用 40 人、一日平均利用人数 2.2 人以上だったが、実績は年間開所日数 250 日、年間利用者人数 427 日人、一ヵ月平均利用 35 人、一日平均利用人数 1.7 人であった。

(3) 走行距離 20 万kmを超えた車両を 2 台廃車にし、新たに 1 台の車両をリース契約で整備した。台数が減少したことに伴い 1 台分の駐車場の契約を解約した。

(4) 自立支援協議会主催による「大津市ヘルプ事業所協議会」では主に令和 6 年度より義務化される BCP 計画の策定について検討、「移動支援プロジェクト」では移動支援制度の課題点について大津市役所の担当者を交えて協議検討をした。

(5) 年間 5 回のケース会議に出席した。コロナの影響により開催自体を見送られるケースもあったが、それぞれのケースで関係機関と緊密にやりとりをし、事業所内で情報共有し、支援者全員が本人理解を深めた上で支援にあたるよう心がけた。

### 3. 苦情、事故など

ヘルプ : 苦情 6 件、事故 2 件(全て車両事故)

日中一時 : 苦情 0 件、事故 0 件

## (12) 相談支援事業所ひびき

### 1. 利用実績

#### ①計画・モニタリング延件数

	合計	計画	モニタリング
合計	515	248	267

#### ②支援実人数

	合計	身体	知的	精神	発達
障害者	257	4	245	6	2
障害児	52	2	48		2
合計	309	6	293	6	4

#### ③相談延件数

	合計	身体	知的	精神	発達
障害者	5082	65	4828	125	64
障害児	472	33	430		9
合計	5554	98	5258	125	73

職員体制は、相談員 4 人。※2022 年度の計画延件数・相談延件数が 2021 年度より減っているのは、2021 年度に「移動支援のルール変更に伴う計画変更」が多かったことが影響していると考えられる。

### 2. 重点課題に対する取り組み

(1) 市の指定特定相談（計画相談：モニタリングと計画更新）及び委託相談（一般相談）をおこなった。相談員 4 人体制を継続できたため、児童を中心に新規ケースを 11 件受けることができた。しかし、まだニーズに充分応えられていない状況が続いている。相談員の不足については、市全体の大きな課題である。

(2) 適切で円滑な相談業務をおこなうために、週 1 回の職員会議の他、困難ケースについては適宜打ち合わせをおこない、必要に応じて 2 人体制で対応するなど、相談員間のコミュニケーションを密にとった。また、法人内外の関係機関とも積極的に情報交換をおこなった。

(3) 今年度は特に、住まいの場の調整や高齢分野との連携について、調整や検討をおこなうことが多かった。他にも、家族の高齢化や病気、家庭基盤の弱さ、事業所内・就労先・地域でのトラブル、引きこもり等のケースについて、自立支援協議会の相談支援連絡会（月1回）にそのつど挙げ、市や他の相談支援事業所とともに地域課題として検討した。

### 3. 苦情、事故等

なし